

# 輝け理系女子

## 豊橋技術科学大学の挑戦④

「理系女性研究者の活躍促進シンポジウム」。3部では、女性研究者によるポスター成果発表で企業との交流を行った。

研究者として参加した、名古屋大学大学院創薬科学科博士課程後期1年の石田麻衣子さんは「女子だけで企業とじかに会って研究の話をするのは初めて。技科大、名市大と交流して研究の考えを広め、仲間を増やしたい。今後は技科大の

女性研究者の積極的雇用を期待している」と、リケジョ支援に期待を寄せた。

名古屋の薬剤系企業から参加した男性は「直接研究者と話をする場を利用したい。今後も具体的な内容が聞ける研究発表には足を運びたい」と話し、男女差よりも個人差、研究内容が重要だと、パネルディスカッションで話した東村氏と同じ考えを示した。

女性研究者と研究内容について積極的  
に意見を交わしてい  
た大西学長は「技科  
大は学生も教員も女

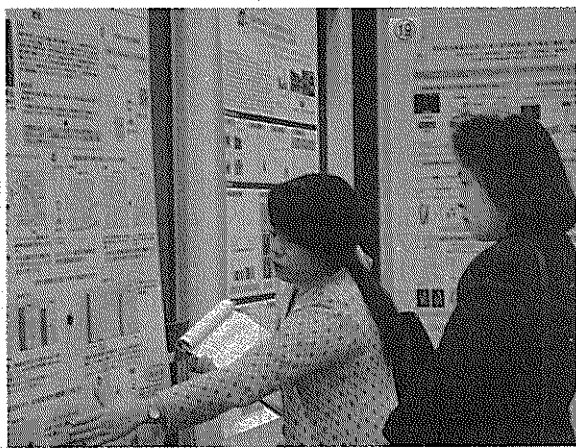
研究者が男性と同様に  
研究できる環境を整  
え、光が当たるよう  
にして頂きたい。そ  
して能力に性別がな  
る結果となった。

いことを示してほし  
いなどの声が寄せ  
られ、参加者にも多  
くの気づきを提供す  
る結果となった。

パネルディスカッ  
ション参加者が口を  
そろえて言った「働  
き方を変える」。その  
ためには「男女差で

# 女性研究者成果発表と企業交流

性が少ない。女性を  
増やしていくという  
大きな課題は一度に  
は無理かもしれない  
が、目標を設定して  
比率を上げていきた  
い」と意欲を見せた。  
参加者アンケート  
からは▽女性活躍の  
ためには、システム  
整備のみでは不十分  
で、周囲の理解が重  
要だと大変考えさせ  
られる▽理系女性研



研究内容を説明する石田さん⑤

はなく個人差・人間  
力の問題」という考  
え方に気づき、意識  
改革していく必要が  
ある。男女を問わず  
働きやすい環境を作  
ってほしい」という  
アンケート結果から  
の声は、人口減少の  
中、持続可能な社会  
づくりにとって最も  
重要なキーワードの  
一つと言えよう。

(戸崎史子)